

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 17章 1~13 節

①天と地の境が取り除かれた稀有な出来事！ 私たちにとっては？

「天と地ほど違う」という言い方があります。信仰の世界でも、天と地は、神様（天）と人間（地）の絶対的な違いを表す時に用いられます。弟子たちが山上で経験した出来事は、その天と地の境が無くなり、普通は人間には理解できない神様の領域のことを理解できる機会が与えられた出来事です。これは私たちと関係があることなのでしょうか？ 私は自分がまさか目に見えない神様を信じる信仰を持ち、さらには牧師になるとは思っていませんでした。しかし、やはり「**高い山に登る**」(1)機会が与えられたわけです！（タボル山は30m。神様はあらゆる出来事を通して私たちをご自身と出会わせ給う方！）。

②稀有な出来事の先にある大事な意味、このお方に聞いて生きる！

ペトロは「お望みなら仮小屋を建てましょう」(4)と言いました。この現場に出会えた嬉しさを精一杯言い表した姿です。しかし、それは人間の思いであり、神様の思いからはずれているものでした。ペトロがこう話しているうちに、「これは私の愛する子。私の心に適う者。これに聞け」(5)と言う声があり、もうモーセとエリヤはいなくなっていたからです。ここから教えられることは、不思議な出来事を経験した（神様と出会えた）ことが大事なのではなく、その後、このお方イエス様に聞いて生きる者になることが大事なのだということです。

③恵まれた3人。しかし、ただ「羨ましい」と思うだけではなく

この経験をできたのはペトロトヤコブとヨハネの3人でした。次にまたこの3人だけをイエス様が伴われる場面があります。それは、イエス様が十字架におかかりになる前、ゲッセマネの園で祈られた時でした(26:36以下)。目に見えない神様を信じることができるようになることは神様から与えられた素晴らしい恵みです。しかしそれは、私たちの罪の赦しのために神様の御子イエス・キリストが十字架におかかり下さったことを忘れてはならない恵みでもあるのです。キリスト教はただ超越者なる神様の存在を信じるという宗教ではありません。この神様の犠牲の差出に心打たれて信じる者となる信仰なのです！